

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第25号

2007年6月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## ヌルヌルで気持ち悪うー！

### 名戸ヶ谷小5年生65名が田植え

天気予報に一喜一憂しながら5月7日(月)、名戸ヶ谷小学校5年生児童65名、5年担任、それに校長先生以下6名の先生方と8名の見学のお母さん方、9名のビオトープ会員という大勢が参加する中で、朝の9:30分から泥んこになって田植えが行われました。

水田部会の小笠原さんによって事前に用意された図面と稲の分け方、植え付け手順に基づく説明を受けてから、割り当てられた田んぼへいざ出陣。ほどよい水温とヌルヌル感に歓声が響き渡りました。先客の蛙、オタマ、クモ、などの生きものにビックリしながらも、一時間ほどで作業を終えました。田んぼから上がった児童の泥んこの着衣や頬に残る泥の跡が奮闘を物語っていました。(窪田 孝志)



### ひとくちインタビューより 一田植え直後の5年生と見学のお母さんに聞きました

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| ○ 最初怖かったけど、慣れてくると楽しかった(男子) | ○ 楽しかった。泥んこになるのって好きだから(女子)  |
| ○ 楽しかった。もう一回やりたい(男子)       | ○ どろどろで気持ち悪かった(女子)          |
| ○ 気持ち悪かったけど途中から楽しくなった(男子)  | ○ 植える間隔が難しかった(男子)           |
| ○ 他ではできない貴重な体験をした(男子)      | ○ いいですね、こういう体験。毎年お願いします(母親) |
| ○ 転んで汚れた。大変だった(女子)         | ○ 初めての経験にしては上手にできていました(母親)  |
| ○ 泥んこになったけど楽しかった(男子)       | ○ 名戸小のいいところを見せていただきました(母親)  |

## 初めての田植え

5年児童の感想文より



ビオトープに着いたときドキドキした。田んぼはどろどろしていて冷たいし、意外と深かった。田植えはいい経験になったなあと思うし、楽しかった。(小久保 莉奈メリー)

田植えをやっていると、くつ下がぬげたり、ザリガニをふんだりで、友だちに助けてもらいながら最後まで植えました。またやってみたいです。(早乙女 倫代)

# 人手多けりゃ仕事も速い

## 不耕起水田の田植え

4月中旬不耕起田んぼの除草をした。例年以上に雑草が繁茂したためにやむを得ず「タガラシ、キツネノボタン」他、春の花たちに泣いてもらいました。苗の引き取りに小笠原さん他2名の協力で5月4日、香取郡神崎町まで行きました。不耕起普及会の施設で育てられた育苗トレー20枚をピオトープまで運びました。帰路GWによる渋滞の心配があるため岩澤先生のお話も省略となりました。田植えは5月10日に線引きをしました。今回は用具に紐をつけ腰で引く方式としましたが、水牛になったような気分でした。



田植えの日は天候にも恵まれ、5月12・13の両日で延べ29名の方々が参加されました。今年で5回目となると経験者が増えたこともあり、手際よく田植えもすすみ、両日2時間ほどで6枚の田んぼに苗が整列しました。いい眺めです。

今年の田植えには東京からやってきた春山先生の教え子4人のお手伝いを頂きました。この後の「稲刈り、脱穀、収穫祭」への参加もお勧めしました。皆さんの協力に感謝いたします。(窪田 孝志)

田植えに参加して、最近本当に近くに縁がない生活をしていたことに気がきました。草や土の匂いになんとかほっとして、すごく癒される気分でした。よい機会を与えていただき、ありがとうございました。(佐藤美緒)

和やかな雰囲気の中、無心になって体を動かして実に爽快でした。ピオトープで繰り広げられる生きものたちの営みと、それを守る方々のやさしいお気持ちに思いを馳せております。またお手伝いに伺わせてください。(吉田高德)

## 今年はあったかいですね

### 田起こし・代掻き・有機肥料散布

田起こしも会員のみなさんの協力で無事終了し、5月4日には増田さんの耕運機を入れて在来稲作水田の代掻きを行いました。私も挑戦しましたが、耕運機の後ろについていくので精一杯で、改めて増田さんのパワーに感心しました。代掻きの後で窪田さんと「均し」をしました。が、まだ不十分です。田植え後の初期水深が大切なので、来年はもう少し直しをします。



また、5月27日には、遅ればせながら在来稲作水田・不耕起水田の両方に肥料を散布しました。宮城の蕪栗沼近辺で稲作りをしている親戚から取り寄せたくず大豆30kg、大豆と米糠のピレット30kg、アミノ薬元(セミぼかし肥料)20kgの有機肥料、10アール分です。来年はもう少し早く手配し、量も確保します。収穫量も大切ですが美味しいお米ができるといいですね。稲はオタマジャクシと一緒に順調に生育しています。(小笠原 智)

# 春の生きもの観察会

4月21日、少々風は強いが天気は最高。参加者は親子4組を含め、主に子どもたちを中心に合計17名。かつてなく盛況であった。観察会は、植物観察と動物観察の二組に分かれて行った。植物観察は佐々木さんが担当し、ビオトープの中を春の野草を観察しながら整然と歩き回る。落ち着いた、いかにも大人の自然観察会という雰囲気だった。



一方で、動物観察はそんなに静かにゆっくり観察できない。小学

校3、4年生くらいの子どもたちがおとなしく人の話を聞くはずもなく、とにかく水網などを持たせてビオトープの生きものを追いかけてもらい、捕らえたものをバケツに入れ、後でみんなで確認する。

今回は水中の生きものに興味をもつ子が多く、あまり草むらを探ることはなかった。風も強かったので蝶などもほとんど見ることはできなかった。それでも、あちこちで鳴いているニホンアマガエルには興味があるようだった。観察会は最後に放流予定のヘイケボタルの幼虫を見せて1時間半後に終了。(松清 智洋)

## 春の生態系調査 5月12日(土)

**生きもの** 今回の調査最大の収穫はミイデラゴムシ、俗称ヘッピームシ。捕まえる前に虫採り網の柄で背中をつつくと、尻から霧状の液体を噴射した。これがけっこう臭う。田んぼや湿った湿地に見られる種なのでさほど珍しいとは云えないが、夜行性なので日中の観察ではさほど頻繁に見られるものではない。ビオトープはすでに初夏の気配。オオヨシキリが大声で自己主張し、ツバメが巣作りの建材集めで田んぼの中で精を出していた。特に大きな変化は見られず、逆に安定した生態系を確認することができた。(松清 智洋)

**植物** Bゾーンの南側の植生が安定してきました。ヒメガマとヨシとマコモが優占し、以前あったオギ、クサヨシは駆逐されました。唯一ウキヤガラが残っていますが、これは今後保護することにしたと思います。Aゾーンでは新たな湿地性植物-ショウブの花-が見られました。従来は花をつける前に刈り取られていましたが、今年は運よく花をつけました。AゾーンからBゾーンへ一部を移植したヒメヘビイチゴ(千葉県絶滅危惧種)は今年も花をつけ完全に定着しました。定着先の環境を管理して少しずつ広げてゆきたいと思います。(佐々木光正)

## Aゾーンの木道工事



腐食のため撤去された木道のうち、木村さん宅側から不耕起水田までの木道新設工事を4月28・29の2日間で行いました。木杭を2本ずつ1.8m間隔で打ち、根太を渡して、上に2.5cm幅・4.2m長の踏み板3枚を並べて渡す新しい形式で完成し

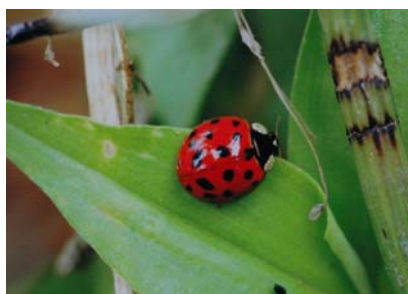


ました。なお、Bゾーン排水口付近に架橋を行った結果、Bゾーンを回遊できるようになりました。(外川 克之)

# ビオトープの生きもの

## ナミテントウ

## テントウムシ科



日本全土で3月から11月ころまで見られる。球を真っ二つに割ったような独特の形をしている。球は体積にたいして表面積が最小になるので、越冬の時体温を奪われないとか、夏は乾燥に強いと考えられている。ナミテントウは形は同じだが、着ている服の色、デザインはまちまちで、黒一色のもの、赤一色のもの、黒地に赤点のもの、赤地に黒点のもの、点の数も2個から10数個までである。植物に来るアブラムシを食べる益虫である。戦時中は日の丸をつけているものは大切にされたという。

## ツマグロオオヨコバイ

## オオヨコバイ科



本州以南で4月から11月頃まで見られる。体長13mm前後だが、黄色と黒の配色なので目立つ。茶、桑、ミカン、ブドウ、などに付く害虫である。名前の由来は翅の先だけが黒く、横に這う昆虫ということで、指を近づけるとカニのように横に歩いて、葉の裏などに隠れようとする。成虫で越冬するが、黄色部分は死後橙色に変化する。イネの害虫として知られているツマグロヨコバイは、ヨコバイ科の別種で、一回り小さく、イネに付着していると目立たない。

(篠崎 将)

## 合同作業日の報告

4月21日と5月12日の合同作業日にビオトープの清掃・草刈をしました。全員で湿地ゾーンを一周する回遊路ができました。回遊路の一部は木道を下りて湿地帯の中を通ることにしましたので、ヨシを刈り取って道を作りました。背の高いヨシが茂る中を歩くのは木道とは違った雰囲気味わえると思います(P.3記事「Aゾーン木道工事」と添付写真参照)。また、湿地ゾーンの魚釣り場にガマが生えてきましたが、木道に近いガマを刈り取って魚釣りができる場所を広げました。沢山の子どもたちが来て釣りなどを楽しんでもらいたいと願っています。(佐々木 光正)



## ビオトープ掲示板 リニューアル

5月26日(土)と28日(月)の連続作業の結果、アクリルの引き戸(アルミ製)、コンクリート固めの土台付きの立派な掲示板が設置されました。資材調達は小笠原設計事務所、現場工事監督は山谷建設所長。その指揮下で多数の労務者が作業に従事しました。(広報担当)



### 編集後記

お天気に恵まれて名戸小5年生児童による田植えも不耕起水田の田植えも無事に終了。蛙と共生しながら稲は青々と元気よく育ち、小さな青い波の上を初夏を思わせる風が渡っています。田んぼにはザリガニの姿も目立って増え、新設した木道の上には釣りを楽しむ親子の姿も数多く見かけます。会員の協力で立派なビオトープ掲示板も完成し、足を止めて眺める市民の姿も増えました。これからも田んぼの雑草取り、水管理、と作業は続きますが、ひき続きみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。広報担当(春山)